

ANNUAL REPORT 2024

ひとりの付き添いを、みんなの寄り添いに。

TOPICS

- 1 10周年を機に、
団体名を変更しました
- 2 東京都から認定NPO法人に
認定されました
- 3 新たな支援事業が
スタートしました
- 4 支援したご家族が
2万2000人を超えました
- 5 「健やか親子21
内閣府特命担当大臣表彰」
最優秀賞を受賞しました

Keep Smiling!

認定NPO法人キープ・スマイリング

(旧団体名:キープ・ママ・スマイリング)

子どもが入院しても、 笑顔を失わないでいられる社会を。 笑顔の革命を、さあ、一緒に。

新生「キープ・スマイリング」を、これからもよろしくお願いします。

2024年度は、私たちにとって大きな転機的一年となりました。

家族の声を国に届けた結果、悲願だった付き添いに関する検討会が開かれ、4月には“付き添い環境の改善”が診療報酬改定に盛り込まれるなど、国が動き出したのです。

5月には、活動の公益性が認められ、東京都の認定NPO法人となりました。

そして2025年5月、活動の広がりに合わせて
「キープ・ママ・スマイリング」から「キープ・スマイリング」へと
団体名を変更しました。

子どもが入院しても、笑顔を失わずにいられる社会をめざしてー。
新たな一歩を踏み出した私たちを、どうか温かく応援してください。



認定NPO法人
キープ・スマイリング 理事長

光原ゆき



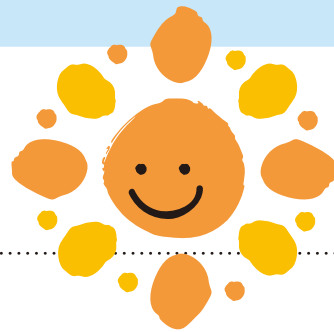
2024年11月に、10周年を迎えました

株式会社リクルート様が会場をご提供くださり、11月29日に10周年記念チャリティパーティーと講演会を開催しました。活動を支える200名以上の方が一堂に会し、その温か

な空気に理事長の光原が涙で声を詰まらせる一幕も。これまでも、これからも——託された想いを力に変えて、活動につなげてまいります。



10周年を機に、スペシャリストの皆様を交え、
団体のビジョン・ミッション・ポリシーを策定しました。



Vision

(目指す社会)

Keep Smiling

子どもが入院しても、子どもと家族のみんなが笑顔を支わないでいられる社会のために。

私たちが目指すのは、子どもの入院という笑顔がけって当たり前ではない状況でも、
子どもと家族のみんなが笑顔を支わないでいられる社会の実現です。

Mission

(私たちの使命)

Smile Revolution

あきらめるのはもうおしまい。笑顔の革命を、さあ、一緒に。

私たちは、付き添い環境における理想の追求と変革をあきらめません。安心して付き添えて、安心して離れられる。そんな付き添い環境を、
仕組みをつくる行政と命をまもる医療の現場、そして子どもと家族の笑顔をお願いあなたと一緒につくりまします。

Policy

(行動の指針)

Smile Policy

1 子どもの笑顔を まんなかに考え抜く。

すべては、子どもの笑顔のために。どんな応援の仕組みをつくるにも、私たちは子どもの笑顔をまんなかに考え抜くすべての人と一緒に、この本質をつかみ続けます。

2 医療の現場から 信頼される活動へ。

子どもの命と笑顔のために力をつくす医療に携わるすべての人への尊敬と感謝を胸に。信頼されるパートナーであるよう、現場の困りごとに寄り添い、声に学び、より良い活動を実践し続けます。

3 付き添う日々が 自分を失う毎日にしない。

「親だからがんばるのは当たり前」と自分のことはいつも後回し。そんなあなたの付き添いの日々が、かけがえのない時間となるように、私たちは寄り添い続けます。

4 カタチあるものも、ないものも、 エールを込めて。

「箱をひらいた瞬間、泣きました」商品の選び方や詰め方など、私たちは細部にエールを込めて、応援の気持ちを届けます。それはまるで、付き添い環境でがんばるあなたの背中をさすように。

5 ひろげよう！ みんなが笑顔の応援団。

寄付などの方法と一緒に社会を変えていく仲間（笑顔の応援団）から「応援して良かった」と感じてもらえる。私たちは自信と誇りと誠実さをもって、笑顔のひろがるファンドレイジングを実践し続けます。

6 私の笑顔がなければ、 だれかの笑顔は守れない。

笑顔は笑顔に連鎖する。だれもが笑顔を支わないでいられるように、まずは私自身を大切に。私の笑顔が、めぐりめぐって子どもと家族のみんなの笑顔につながることを忘れません。

[Special thanks] 長濱孝広さん、小田起世和さん

私たちが目指す“付き添い”のあり方



「子どもの幸せ」を真ん中に、
笑顔で付き添える／安心して任せられる
環境を目指しています



病気の子どものやきようだいが、いつでも親と一緒に過ごせる入院環境を保障されていること。それは、子どもの大切な権利であり、親が付き添うことが回復や成長・発達に重要だと考えています。（※日本小児科学会も「病院などで親や大切な人といっしょにいる権利」を「医療における子ども憲章」に明記しています。）

“付き添い”という社会課題とは？

“付き添い”の困りごと。食・睡眠・見守り・お金・きょうだい

当団体が3600人以上から回答を得た「付き添い生活実態調査2022(※)」。そこから見えた“付き添い入院”中の困りごとで大きなものは、①食事がままならないこと、②厳しい睡眠環境、③長時間・多岐にわたる子どものケアで目が離せないこと、でした。また、自宅から通って付き添う“面会”の場合は、片道2～3時間かかる場合もあり、④経済的な負担、⑤きょうだいのこと、も切実な課題となっています。

※正式名「入院中の子どもに付き添う家族の生活実態調査2022」



忙しくシャワーを使えない日も多い。30分でもいいので見守りを誰かにお願いできれば…。

仕事を続けられず、家族の食費も減らした。

病室は飲食禁止。子どもが不安がるので離れられない。食事は子どもが寝た際に院内コンビニにダッシュ。

病棟にレンジもお湯もない。温かいものが食べたい。

夫婦でインフルエンザに…代理人必須と言われ、自力で歩くのもやっとな私の母に無理して来てもらった。

きょうだいがいるため付き添い入院でなく面会に。片道2時間で交通費がかさみ、面会回数を減らした。両方の子どもに泣かれ、体力的にも限界がきて自分も倒れてしまった。

子ども用ベッドに3週間添い寝。体が痛い。



データで見る“付き添い”の現状

さまざまな調査を実施し、付き添いの実態を明らかにしてきました。



「付き添い
実態調査2022」
はこちら



入院している子どもの数

年間約

80～100万人

0～14歳。当団体が国のデータなどから算出した推定数。
(2024年11月現在)

付き添うかどうかを選択できない

付き添い必須

70.8% (※2)

付き添い入院を希望する・しない以前に付き添いが必須だった親の数(※2)

付き添い当事者への大規模な調査を実施したことで明らかになった実態と課題。

“安心して付き添える・安心して任せられる”環境を本気で実現するために、小児病棟の課題とも向き合い始めました。

小児病棟の困りごと。人手と財源の不足

なぜ親が付き添うかどうかを選べず、親による看護の代替が常態化するのか——背景には、日本の小児医療をとりまく人手と財源の不足があります。国に定められた看護師の配置数は、手にかかる赤ちゃんであっても成人と変わらず、一般的な急性期病院では看護師1人にたいして7人（夜間は10人）。子どものためにも親を頼らざるを得ない、そんな実態が見えています。



看護師より

付き添い環境を改善したいが、忙しくて手が回らないしノウハウもない。

家族より

忙しそうでナースコールを押すのも躊躇する。

家族より

大勢の子どもを少数の看護師で看るのは不可能だと思った。親が24時間付き添ってケアをするしかない状況だと感じた。

家族より

ドクターは「いつ寝てるの?」というぐらい忙しそう。感謝しかない。

医師より

小児病棟は大人より手間がかかるが、収入が低く財政が厳しい。人を増やしたくても増やせない。

看護師より

身ひとつで緊急の入院に付き添う親御さんを見て、何かしたくても予算がない。せめて…と、出張先のホテルでもらった歯ブラシを貯めて個人的に渡していました。



東京都立小児総合医療センター 院長

山岸 敬幸さん

小児病棟では病気の治療だけでなく、ようやく療養環境にも光が当たり始めました。こどもたちの笑顔のために、“付き添い”の課題にも関係者と手をたずさえて向き合います。

長期入院の付き添いによって

体調不良 **58.4%** (※1)

睡眠不良 **94.8%** (※1)

栄養不良 **93.6%** (※1)

長時間に及ぶケア

4人に一人が

21~24
時間ケア (※2)

世話やケアに費やした1日あたりの時間

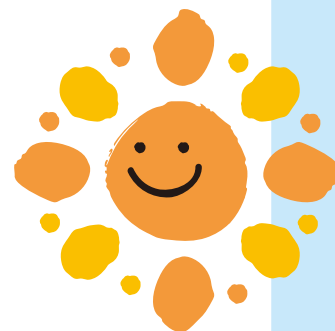
赤ちゃんでも大人でも
看護師の配置数は同じ

看護師一人で

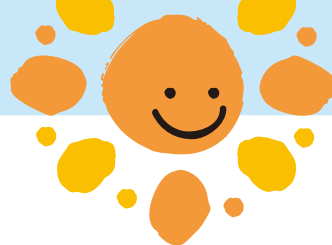
7人担当

夜間は10人

※一般的な急性期病院の場合



Activities & Timeline



私たちの活動

今まさに困っているご家族や病棟への“直接支援”と、“環境改善に向けた働きかけ”の両輪で活動しています。

付き添う家族への直接支援

食で支援



活動の原点、「ミールdeスマイリング」事業。ファミリーハウスでごはんを手作りしたり、飲食店のお弁当を病棟などに届けています。全国に食支援の輪を広げる事務局の役割も。

もので支援



長期間の付き添い入院の方に必要な物資を届ける「付き添い生活応援バック」無償配付事業。企業や小児病棟の協力のもと年3000個以上をお届け。新しい挑戦は右ページに！

情報で支援



付き添い経験者の声を集め、家族の不安を安心に変えるクチコミ掲示板サイト「つきそい応援団」。2周年を迎え、「クチコミ書いてねキャンペーン」も実施。



詳しくはこちら

国や社会への働きかけ



大規模な「付き添い生活実態調査2022」で、子どもの入院付き添いの実態と課題を明らかに。調査結果と要望書を国に提出。国の検討会開催、診療報酬改定へとつなげました。



この社会課題を広く知ってもらい改善に繋げるため、メディアでの報道、講演、「Smiling Family Days」などの啓発キャンペーンも行っています。

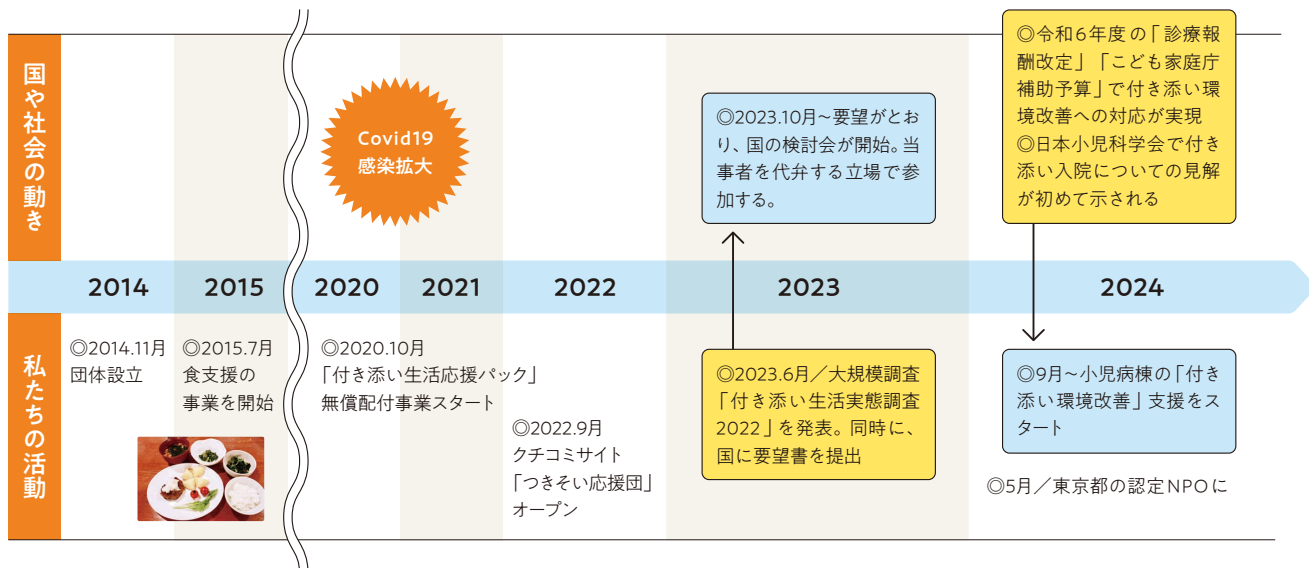
NEW!

病棟支援



付き添い環境改善のボタンが国から医療機関に移るのを機に、「#みんなで小児病棟を支えよう」クラウドファンディングを実施し、支援を開始。詳しくは右ページを。

団体のあゆみと、国・社会への働きかけ



2024年度の新たな取り組み

小児医療の現場との接点が増え、ご家族や病棟の“困りごと”への解像度が上がったことで、また一步寄り添った支援へ。

緊急・短期入院にも支援の手を。「付き添い生活応援バックライト」

子どもの入院の多くは、緊急入院として始まります。身ひとつで突然はじまる付き添い生活。8月、この“いちばん不安な夜”を支える「付き添い生活応援バックライト」をパイロット事業として開始しました。歯ブラシなどの衛生用品、食品、必要な情報をまとめた「つきそい応援団ハンドブック」などをひと袋に詰めて20病院で配布。長期入院（10日間以上）用の応援バックと異なり、看護師長さんの判断で必要な方にお渡ししています。



2025年度から本格スタート！
配布に関する
お問い合わせはお気軽に



クラウドファンディングで18病院に「付き添い環境改善」支援

診療報酬の改定で“見守り”に関しては加算がついたものの、食事や睡眠の環境改善には財源が足りず、すぐには動けない——そこで、5～6月にかけてクラウドファンディング「#みんなで小児病棟を支えよう」を実施しました。

これは、選べる3種類の支援（睡眠・食・アクティビティ）30万円分を提供するというもの。430万円以上の寄付が集まり、さらに自己資金を足し、応募があった18病院にお届けできました。



電子レンジやお湯の有無など、病院ごとの状況をうかがいながら食支援内容をセレクト



当団体オリジナルマットレス、もしくはファイテン株式会社様のマットレスをお届け



道化師やプラネタリウム、アーティストのパフォーマンスなど、感動をお届け

こども家庭庁の補正予算を生かすために

こども家庭庁の令和6年度補正予算として、小児の付き添い環境改善予算が計上されました。都道府県が窓口となるため、2024年度末に各自治体にヒアリングしたところ認知が十分に浸透していない現状が見えました。医療現場の声を聞きながら個別支援にも取り組んでいきます。



当団体にご縁をつなぎ、東京赤坂ライオンズクラブ様が、東京都立小児総合医療センターへ電子レンジ10台を寄贈

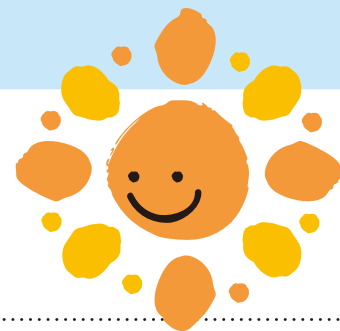
担当スタッフより

病院担当 国武 敦子

医療者の方々と直接やりとりする機会が増え、付き添い環境改善への思いやもどかしさ、ご家族へのやさしさを日々受け取っています。共に歩めるよう、私たちが一歩ずつ取り組んでいきます。



Meals & Support Goods



ミールdeスマイリング事業

活動の原点となる「ミールdeスマイリング事業」。応援の輪は全国へ、企業へと広がってきています。

ミールプログラムで手作りごはん、年間648食

2015年から続く原点とも言える事業で、「Donald・マクドナルド・ハウスせたがや」で手作り食を提供しています。プロの料理家や当団体の管理栄養士をリーダーに、ボランティアの方々と一緒に体にやさしく旬の食材を使ったメニューを心を込めて調理しています。大晦日のおせちなど、病室で長時間を過ごすなかでも食の喜びを感じられるよう工夫しています。

右「No Code」米澤文雄シェフ率いるチームが提供するハウスdeレストラン 右上大晦日の蕎麦とおせち料理 右下エーザイ株式会社のボランティアの皆さまと



2025年6月には
累計1万食突破！

お弁当のお届け917食。企業や団体とのコラボも

コロナ禍を機に2021年から始まったお弁当の配付事業。東京と佐賀で展開し、2024年度は全28の飲食店や企業と協働することができました。聖路加国際病院、東京科学大学病院、佐賀大学医学部附属病院には毎月、Donald・マクドナルド・ハウスふちゅうハウス、同東大ハウスには不定期でお届けしています。2024年度は東京日本橋ロータリークラブ様、株式会社セールスフォース・ジャパン様など企業・団体様によるご支援も広がりました。

左上 つばめグリル様から寄付されたお弁当
左下 新世界グリル様のビーフヘレカツサンド
右上 佐賀の飲食店様とスタッフ 右下 東京日本橋ロータリークラブの皆さまと



「付き添い食支援連絡会 えんたく」

全国の10団体とともに発起人となり、2023年から活動している「小児病棟付き添い食支援連絡会 えんたく」。2024年度、食支援をはじめたい団体へのノウハウ講座とガイドブックを作成しました。（※「タケダ・ウェルビーイング・プログラム2024」の助成事業です）



担当スタッフより

ミール担当 藤田裕美子

コロナ禍でも飲食店のお弁当に変更し、歩みを止めることなく食事を届けて10年。“おいしい”を通じて、これからも皆さまと一緒に笑顔と元気を届けていけたらと思います。

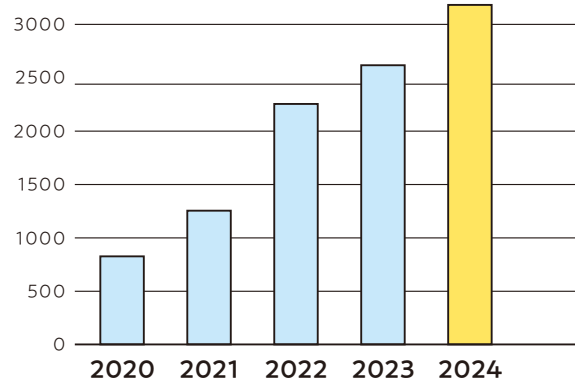


小児中核病院の
9割にご協力
いただいています！

「付き添い生活応援パック」無償配付事業

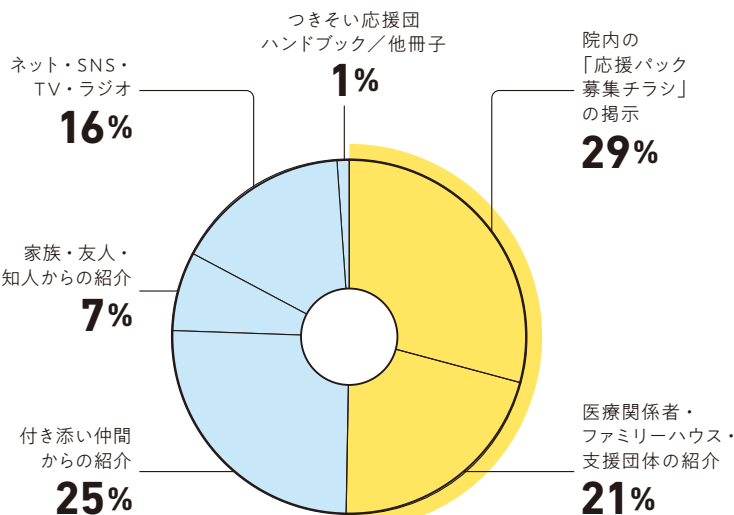
2020年のコロナ禍を機にはじまった同事業は、全国の小児病棟の協力のもと、着実に広がっています。

全国の付き添い家族のベッドサイドへ 年間3000個以上をお届け



◎ 応援パック配付数(年度別)

2024年度の送付数は3000個以上。応募が増え、累計で1万個を超えましたが、配送料など経費の値上がりが課題です。この事業には日本財団・日本歯科医師会「TOOTH FAIRYプロジェクト」の助成をいただいています。



◎ 認知経路

全国の小児病棟のご協力により、認定経路の約半数が病院内の掲示や医療スタッフからの紹介です。また「付き添い仲間からの紹介」も前年より増加。ご協力くださっている皆さまにこの場を借りて感謝申し上げます。

協賛品を提供してくださった企業様は累計150社以上に。

満足度アンケートでは、
5段階評価で平均4.8

食品

常温保存できるお惣菜、ごはん、シリアル、スープ、ドリンク、甘味やお茶、健康ドリンクなど。

生活用品

タオルやレンチン容器、カトラリー、Tシャツなど。ご寄付にないものは、オリジナル開発も。



オリジナルダンボール

病室を元気にするビタミンカラーのダンボールでお届け！物入れにもなるデザインで、エーザイ株式会社様のご提供です。

応援パック担当 早川真由美

オフィスに山積み
の段ボールは企業様
からの“愛のかたまり”。中身の
大部分を寄付品でまかなえ、
購入分が減りました。この循環
が途切れぬよう、心を込めて取
り組んでいます。

担当スタッフより

ビップ株式会社 マーケティング本部
ブランドマネジャー

松浦由典様

理念に共感し、「ビップエレキバン」を継続的に寄付しています。親御さんが添い寝する写真を見て、スペースの狭さに驚きました。病気と闘うお子さんにとって、親御さんの笑顔は何よりの力。厳しい環境のなかで寄り添い続ける生活が、少しでも快適になれば幸いです。

衛生用品

マスクや歯ブラシ、保湿剤、お湯の
いらない泡シャンプー、ビップエレ
キバンなど。



ベッドサイドから始まる笑顔の連鎖を。

ミール de スマイリング



企業様からの栄養ドリンクやお菓子などの品に、「一人じゃない」と嬉しくなった

コンビニごはんばかりで食欲も落ちていたところに、野菜たっぷりの手作りごはん。涙が出ました。



食べ物を通してヒーリングを受けているようだった。



株式会社
ジャパン・ファーム
プロダクツ様より
「マンゴーグミ」

不安な日々にも、味もわからなくなっていました。温かいお弁当を食べて、明日も笑顔で子どもに会いに行こうと思えました。



見た目にも美しいごはんをいただき、自分のことも大切にしようと思えた。

「つきそい応援団」ほか

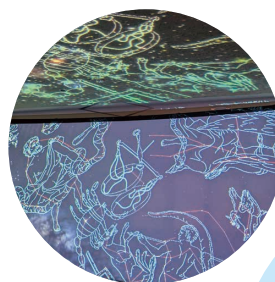


病院への支援

寄贈されたマットレス、寝心地が全然違う！

クチコミサイト「つきそい応援団」

突然の付き添い生活。「つきそい応援団」の掲示板のクチコミを読んで、少し安心しました。



アクティビティとして病棟にお届けしたプラネタリウム

イベント開催

「小児病棟わくわく応援団※」のイベントに参加しました。歌やパフォーマンス、皆さんのメッセージからたくさんの元気をもらいました！

※小児病棟にわくわくを届けたいという想いで、当団体を含む6団体が連携し活動

実態調査の実施

「付き添い実態調査2022」に協力した者です。調査の発表を機に、少しずつですが付き添い環境が良くなっている手応えがあります。本当にありがとうございます！



受け取った皆さまからの声

付き添い生活応援パック& パックライト

申し込みの翌々日に届き、箱ぎっしりの品にびっくり! つい自分を責めて落ち込む日々でしたが、前を向こうと思えた。

不要なものが何ひとつない!



日本ケロッグ
合同会社様より
「オールブラン
フルーツミックス」



院内の乾燥で肌がガサガサに。自分にお金をかけられない中、ハンドクリームなど親目線の支援に感動。

企業様からのメッセージに、涙が止まらなくなった。



ガルデルマ株式会社様より
「セタフィル® フェイスケア
トライアルセット」

お金も時間もないので食品は本当に助かった。甘いお菓子を食べるとほっとする。



株式会社
木曾檜三百年様
「木曾檜
歯磨きジェル」

医療関係者



東北大学病院小児科/
チャイルドライフスペシャリスト
渡辺悠さん

応援パックの箱がかわいくて明るい気持ちになりますし、ご家族が「こんなものも入っていたんです」「たくさん届きました」と嬉しそうにお話されています。物だけでなく、肩の荷を下ろしてほっと一息つくきっかけや、皆様の応援の気持ちも一緒に届いていると感じます。

病院スタッフとは違う
視点からのご支援に
感謝の気持ちでいっぱいです。

広島市民病院／看護師長
平野麻実子さん



食べることも身だしなみも自分を後まわしにされている付き添いの方々にたくさん見えました。

付き添い生活応援パックライトをお渡しすると、「えっ私に? 子どもではなく?」と驚かれ、とても喜ばれるんです。その笑顔を見ることができ、私も幸せです。



株式会社千疋屋
総本店様より
「フルーツジェリー」

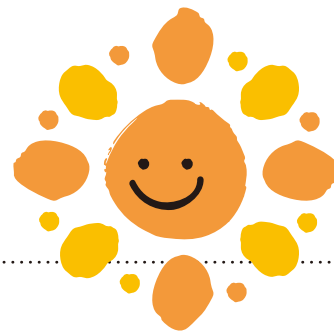


東北大学病院の皆様

Smile Keepers

活動を支えてくださる皆さま

たくさんの企業や団体、個人の方の支えによって、活動を継続できています。
笑顔を守る仲間「Smile Keepers」の輪を共に広げていきませんか？



支援者の声

さまざまな形での支援をご用意しています。（裏表紙を参照）

企業・団体様は、内容をご相談しながらコラボレーション企画なども可能です。

マンスリーサポーター

20年前に付き添い入院を経験。新聞でこの活動を知り、サポーターになりました。
キープ・スマイリングの働きかけで、あの過酷な状況が改善されていくことを願っています。



ふるさと納税

関わる人の情熱と活動に心動かされ、ふるさと納税のタイミングで毎年寄付しています。
忙しく直接支援ができないなか、このようなしくみで支援に参加できるのが嬉しいです。

キャンペーン実施

株式会社 ニールズヤード レメディーズ様

ビューティーバームの購入ごとに一つ寄付するキャンペーンをコラボ開催しました。
弊社のオーガニック製品と自然な香りが、ご家族に笑顔と安らぎをもたらすことを願っています。



おねだりバックアップ

エーザイ株式会社様

2020年から商品寄付、オリジナル段ボールや応援バックライトの袋の提供、ミール作りのボランティア参加などを実施しています。

付き添うご家族のため、今後も全面的に協力して参ります。



法人賛助会員 株式会社GXA様

スポーツと教育をテーマに事業展開する私たちで役立てることをと、プロ野球選手のディナーショーのチャリティ抽選会から、クラファンにも寄付させていただきました。



アイマックスジャパン 株式会社様

この3年間、「IMAX IMPACT DAY」という社会貢献の日にコラボし、講演＋フードドライブと、付き添うご家族へのメッセージ書きを行っています。引き続き応援してまいります。

講演＋フードドライブ



株式会社フィネス様

付き添うご家族の状況を聞き、胸にぐっと込み上げるものがあり、お役に立ちたいと強く思いました。弊社の豊潤サジーに喜びの声を多数いただき、こんなに嬉しいことはありません。

ピジョン株式会社様

「お湯のいらない泡シャンプー」「おしりナップ」など定期的に寄付を通じて支援しています。また、従業員のミールプログラム参加などで、引き続き応援させていただきます。



株式会社 セールスフォース・ ジャパン様

フードドライブの実施や、弊社カリナリーチームによる手作りのお弁当を聖路加国際病院へ届けるなどの活動をさせていただきました。

支援企業・団体数

継続して支援品を提供して下さる企業様のおかげで、応援パックの中身が充実してきました。事業運営を支えて下さる法人賛助会員を広く募集しています。

マンスリーサポーター数

個人・法人を問わず、今いちばんありがたいご支援です。私たちの活動を支える基盤であり、今後も安定的に続けていくために不可欠です。継続的なご支援を心よりお願いいたします。

2024年度

122社

団体発足から累計

295社



2024年度

311人 (法人を含む)

私たちの活動にご寄付・ご支援をくださっている企業・団体の皆様



株式会社ARCTS、アイディール・リーダーズ株式会社、AGUMI GROUP、株式会社アハヴィー化粧品、一般財団法人阿部亮財団、株式会社アリミノ、イオン東雲店、株式会社HR データラボ、H&W 株式会社、株式会社エクスクリエ、オープン株式会社、株式会社Optional、オムニコムヘルスグループアジアパシフィック株式会社、株式会社カレッジ、株式会社菊酒舎本店、株式会社木曾檜三百年、北千住マルイ、株式会社銀座風月堂、株式会社Gunosy、株式会社ClubT、三省製薬株式会社、サンスターグループ サンスター株式会社、株式会社GXA、清水食品株式会社、シスコシステムズ合同会社、有限会社Juliette、株式会社セールスフォース・ジャパン、株式会社セブンアールコンフェクショナリー、ソフトバンク株式会社、株式会社たかくら新産業、田辺三菱製薬労働組合、株式会社つばめ、株式会社ディアーズ・ブレイン、株式会社ディー・メイクス、東京赤坂ライオンズクラブ、東京日本橋ロータリークラブ、株式会社dr365、株式会社名古屋光商事、日本生命保険相互会社、日本生命保険相互会社上野支社労働組合、株式会社にんべん、株式会社ネットワークコミュニケーションズ、ハチ食品株式会社、株式会社ピクルス、PwCコンサルティング合同会社、榎屋製薬株式会社、ブックオフコーポレーション株式会社、株式会社フランネル、株式会社プロミッション、株式会社ヘアジニアス・ラボラトリーズ、丸倉青果株式会社、メディカル・モバイル・コミュニケーションズ合同会社、ヤフー株式会社、株式会社ヤマイチ、株式会社結わえる、株式会社リクルート、株式会社RENI、株式会社ロイヤリティマーケティング、ロート製薬株式会社…その他にもたくさんの企業・団体様よりご支援いただいています

2024年度カレンダー

掲載月	メディア名など
2024年 5月	● 啓発キャンペーン「Smiling Family Days2024 #みんなで小児病棟を応援しよう」実施（5月12日～6月16日） ——クラウドファンディング「#みんなで小児病棟を支えよう」実施 ——チャリティイベント「小児病棟にわくわくを届けよう!」開催 ——オンライン報告会 「ここまできた・これからどうなる?付き添い環境改善への取り組み」開催 ——小児病棟わくわく応援団勉強会&サミット2024開催 ● 認定NPO 法人として東京都から認定される
7月	● 「#みんなで小児病棟を支えよう」支援先18病院が決定 ● ビジョン研修を実施
8月	● 緊急・短期入院向け支援「付き添い生活応援バックライト」を期間限定で配布開始
9月	● 札幌北榆病院様への「見守り支援」を皮切りに、18病院に「食事・睡眠・見守り」支援を順次お届け ● 「つきそい応援団2周年!クチコミ書いてねキャンペーン」実施（9月30日～10月31日）
10月	● 新たな拠点を開設し、倉庫スペースの問題を解決 ● 「Forbes JAPAN」12月号、「いま注目のNPO50」に選ばれる ● 令和6年度「健やか親子21 内閣府特命担当大臣表彰」最優秀賞に選ばれる
11月	● 11月14日、10周年を迎える ● チャリティーラッフル募金を実施、12月16日に抽選会 ● JAMMINとのコラボで、オリジナルチャリティーグッズ販売 ● 10周年記念パーティーを開催、新たなビジョンを発表
12月	● 全19の小児病棟のクリスマス会にプレゼントをお届け
2025年 3月	● 「小林製薬 青い鳥財団賞」を受賞



5月21日、認定NPOとして東京都から認定されました



医療者や病院との連携を強めるため、学会へ積極的にブース出展。（日本小児看護学会、日本小児循環器学会、日本小児腎不全学会、日本小児血液・がん学会など）



応援パックの需要が高まり、倉庫の拡大が急務に。株式会社サカイ引越センター様のご協力を受け、10月、新拠点に荷物を移転



「看護展望」の巻頭インタビュー。その他、新聞各社、ウェブメディア、ラジオなどたくさんのメディアに取り上げられました

活動を評価いただきました！

「Forbes JAPAN」2024年 12月号「いま注目のNPO50」に選ばれるなど、さまざまな形で活動を評価いただいています。



2024年11月、こども家庭庁による「健やか親子21 内閣府特命担当大臣表彰」の最優秀賞を受賞



（公財）小林製薬青い鳥財団の2024年度顕彰（青い鳥財団賞）に選ばれました



企業や団体、学校での講演も増加。昼休み利用やオンラインなど形はさまざま。ご興味ある方はぜひ、お問い合わせください

Accounting Report

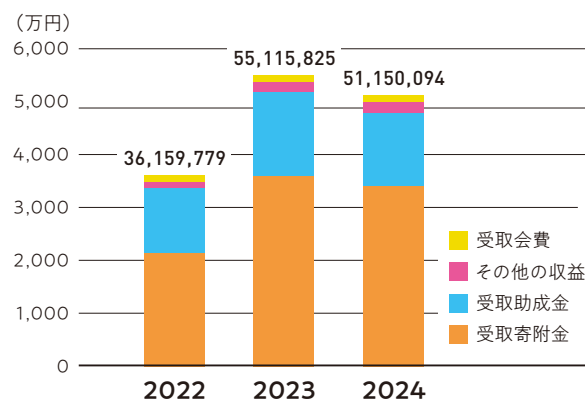
2024年度決算報告

2024年度活動計算書

(2024年度4月1日～2025年3月31日)

	科目	金額
A 経常収益	受取会費	1,312,000
	受取寄附金	34,067,709
	受取助成金等	13,789,548
	その他収益	1,980,837
	経常収益合計	51,150,094
B 経常費用	事業費	38,396,539
	付き添い生活支援事業	33,113,893
	調査・普及啓発事業	5,282,646
	管理費	10,383,617
	経常費用合計	48,780,156
	当期経常増減額【A】－【B】＝①	2,369,938
C 経常外収益	経常外収益計	0
D 経常外費用	経常外費用計	0
	当期経常外増減額【C】－【D】＝②	0
	税引前当期正味財産増減額 ①＋②＝③	2,369,938
	法人税、住民税及び事業税 ④	
	前期繰越正味財産額 ⑤	50,811,230
	次期繰越正味財産額 ③－④＋⑤	53,181,168

経常収益の推移(3期比較)



2024年度

収入は前年度をわずかに下回る中、「応援バック」需要が前年比2割増。付き添い現場のニーズを汲みながら支援対象を広げ、「病院支援」や緊急・短期入院向け「応援バックライト」も始まりました。物価高の影響も重なり、事業費は前年より約1,025万円増加。置き場不足を解消するため、新たに倉庫拠点も設けました。

2025年度計画

「応援バックライト」の本格化、新たな「面会支援」事業の開始など、支援対象が一気に広がる年となります。事業費は前年+1,752万円見込み。これまで限られた人数で工夫を重ねてきましたが、人員と費用の確保が不可欠です。子どもに寄り添うご家族を共に支えるため、マンスリーサポーターなど継続的なお力添えをお願いいたします。

2024年度の活動を

ご支援いただいた助成金・報奨金(※1)

助成金の多くは支援事業に対するものです。皆さまの期待に応えられるよう全力で活動していきます。

- 付き添い生活応援バック
 - ・TOOTH FAIRY プロジェクト
(日本財団・日本歯科医師会)
 - ・横浜ゴム、YOKOHAMA まごころ基金
- ミールdeスマイリング in 佐賀
 - ・キリン・地域のちから応援事業(キリン福祉財団)
- 食支援連絡会えんたく
 - ・タケダ・ウェルビーイング・プログラム2024
(武田薬品工業株式会社)
- 付き添い生活応援バックライト
 - ・TOOTH FAIRY プロジェクト
(日本財団・日本歯科医師会)
 - ・こども笑顔応援基金助成金(東京コミュニティー財団)
(※2)

※1 青い鳥財団賞の副賞300万円は団体への報奨金
※2 2025年度の活動分に充当予定

この活動計算書が会計帳簿の記載金額と一致し、認定特定非営利活動法人 キープ・スマイリングの収支を正しく示していることを認めます。

監事 三浦 真(公認会計士)



詳しくはこちら



支援の方法

子どもが入院しても、安心して付き添える社会へ。
子育て世代のセーフティーネットを共に作りませんか？



支援の方法を見る
クレジット決済・
PayPay払い(※)
はこちら

※PayPayは本人
確認完了済のみ

寄付金控除により、寄付金の最大50%が戻ります！

キープ・スマイリングは認定NPO法人となり、ご寄付は寄付金控除(税制優遇)の対象となります。
最大約40%の所得税控除と、東京都にお住まいの方は住民税控除と合わせると最大50%の控除が受けられます。

所得税：(36,000円-2,000円)×40%=13,600円
→合計13,600円の控除が受けられ、毎月の実質負担額は2,000円未満となります。

たとえば、個人の方が

毎月**3000円**

のご寄付をされる場合

毎月の実質負担額は

2000円未満に

東京都の方は…

住民税10%分を加え、

1600円程度に

マンスリー サポーター

月1,000円から始められる
継続的な支援が、
事業の屋台骨となります。

月1,000円

のご寄付で、
1年で約14袋の
応援バックライトを
お届けできます。



月3,000円

のご寄付で、
1年で9箱の
応援バックを
お届けできます。



月10,000円

のご寄付で、
1年でお弁当100食分、
30個の応援バックを
お届けできます。



都度寄付

3,000円から。クレジット決済・PayPay払いは、
ウェブ(右上QRコード)をご利用ください。
※直接振り込みの方で領収書が必要な方は、03-6822-
5371(代表)に住所などを必ずご連絡ください。

三菱UFJ銀行

支店名：本店 普通口座1766316
口座名義：特定非営利活動法人
キープ・スマイリング
よみがな：トクビ)キープスマイリング

郵便振替

口座番号：00180-2-551449
口座名義：特定非営利活動法人
キープ・スマイリング
※郵便局に備え付けの振替用紙にご記入の上お振込ください

個人の支援

ふるさと納税による寄付

ミールdeスマイリングでご縁のある佐賀県のNPO支援のしくみを使い、
寄付ができます。寄付額のうち2,000円を超える部分について、所得税
および個人住民税からそれぞれ控除が受けられます。



買って応援

- Amazon
ウィッシュリスト
- チャリティグッズ購入
(ClubT)
- アスクルポイント



売って応援

- ブックオフ
「キモチと。」



遺贈寄付

募金で応援

- PayPay
ネット募金箱
(PayPayは
本人確認
完了済のみ)
- Yahoo!Japan ネット募金
- ソフトバンク「つながる募金」



法人の支援

賛助会員

一口10万円～

現物寄付・ 協賛

企業内講演会や従業員の ボランティア参加

お気軽にご相談ください

コラボレーション

- コーズマーケティング
- フードドライブなど
チャリティイベント開催

※控除対象外となる寄付もありますので、詳しくはウェブサイトをご覧ください(右上QRコードより)



認定NPO法人キープ・スマイリング

〒104-0061 東京都中央区銀座4-13-19 銀林ビル4F
info@momsmile.jp https://momsmile.jp



公式サイト



本冊子は
ザーネブランドの
協力により
制作しております。